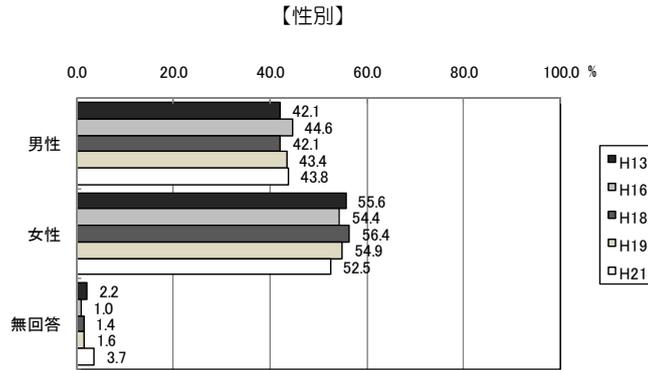


3 市民意識調査の回答者の特性

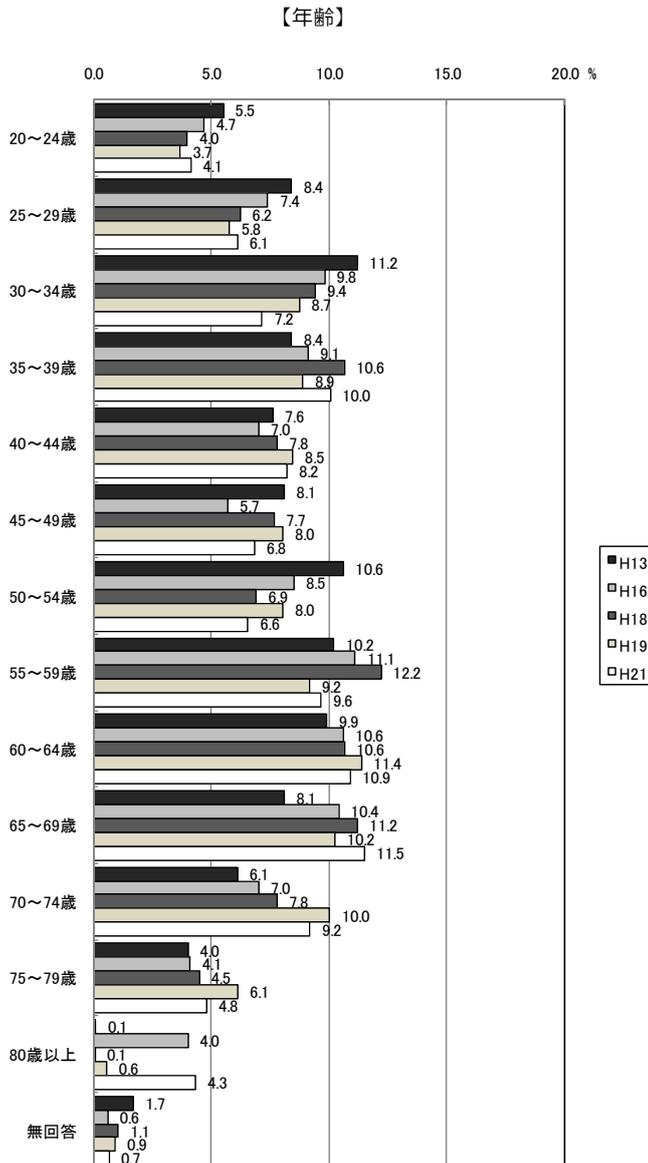
3-1 性別

性別をみると、“女性”(52.5%)の割合が高い結果となっている。



3-2 年齢

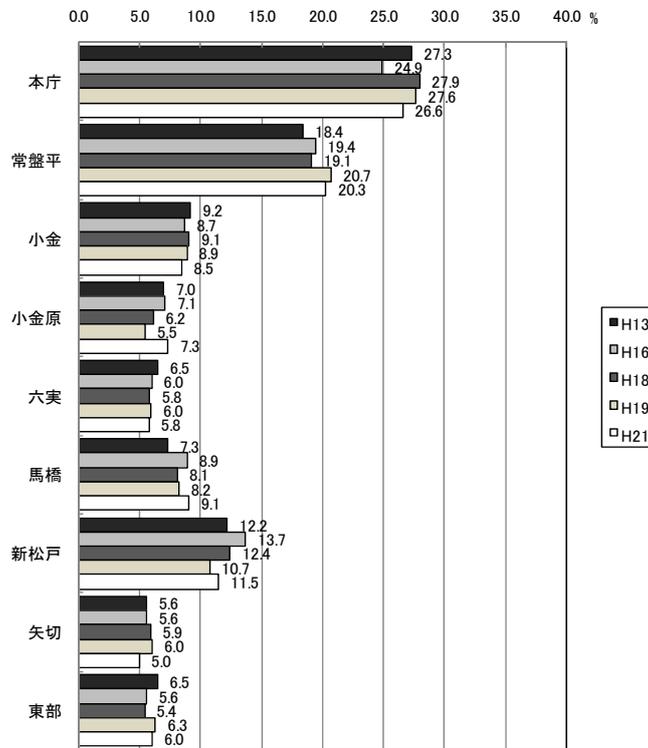
年齢は、前回に比べ20歳代、“35～39歳”、“55～59歳”、“65～69歳”、80歳以上の割合が増加し、“30～34歳”、40歳代、“50～54歳”、“60～64歳”、70歳代の割合が減少している。



3-3 地区別

地区(支所管区)別では、“本庁”が26.6%で最も高く、次いで“常盤平”(20.3%)、“新松戸”(11.5%)となっている。

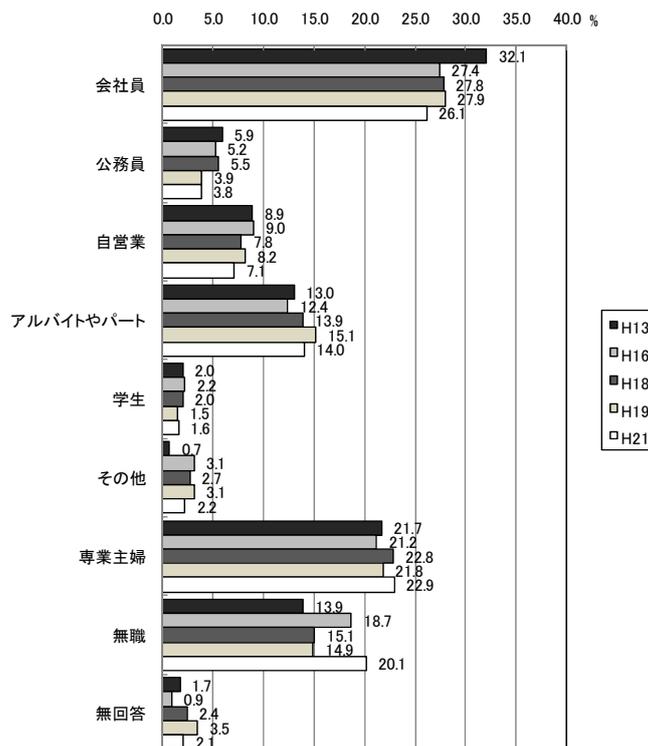
【地区別】



3-4 就労状況

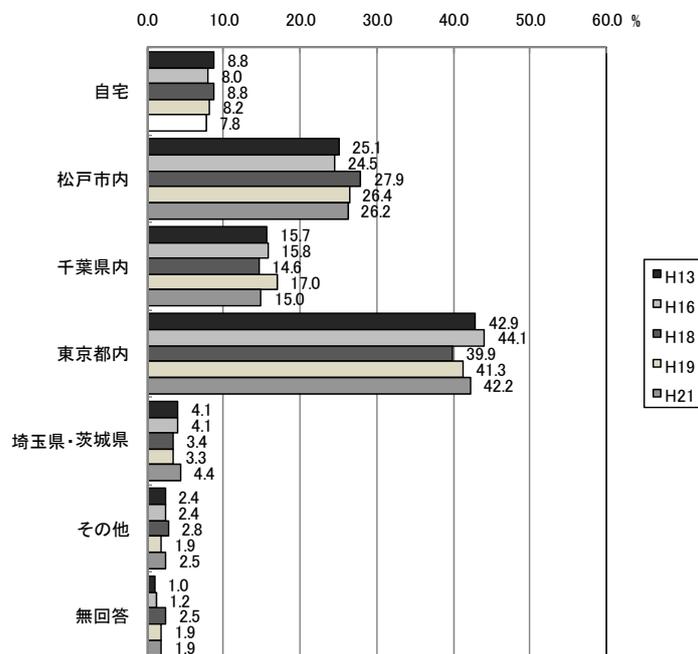
就労状況は“会社員”(26.1%)が最も高く、これに“専業主婦”(22.9%)、“無職”(20.1%)の順で続いている。

【就労状況】



就労・就学している人の通勤地・通学地は、“東京都内”(42.2%)が最も高く、次いで“松戸市内”(26.2%)、“千葉県内”(15.0%)となっている。前回と比べると“東京都内”にやや増加がみられ、“千葉県内”にやや減少がみられる。

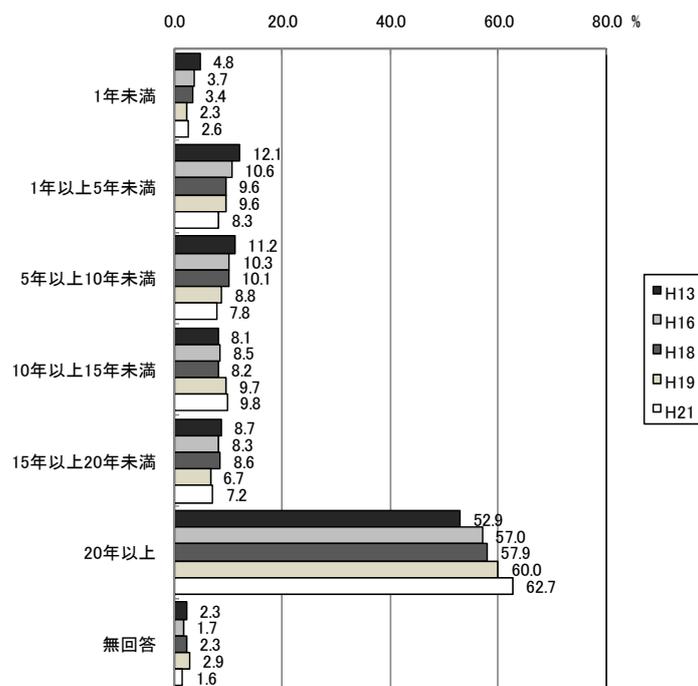
【勤務地・通学地】



3-5 居住年数

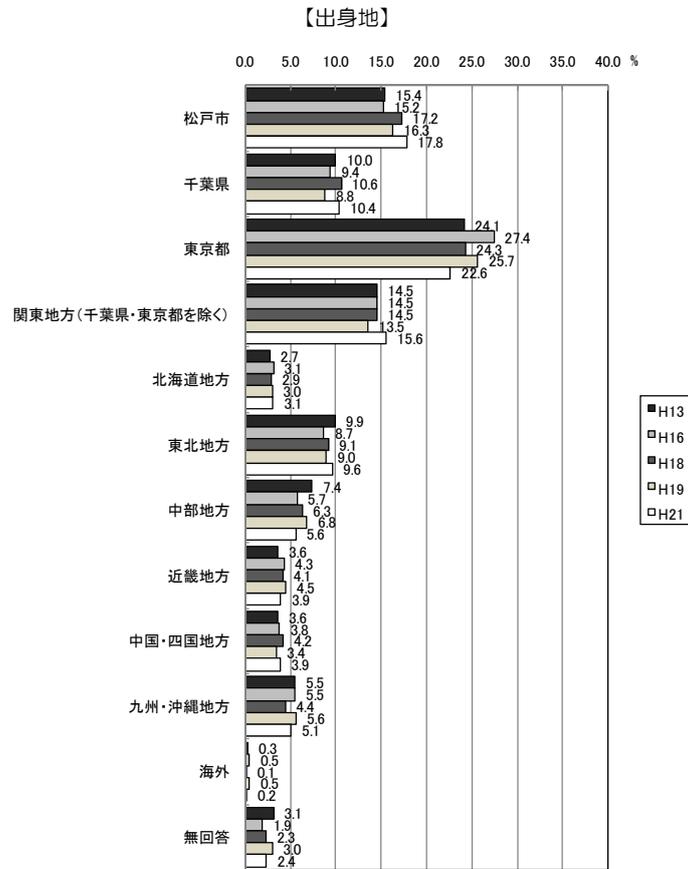
居住年数は、“20年以上”が62.7%と半数以上を占めており、年々増加している。

【居住年数】



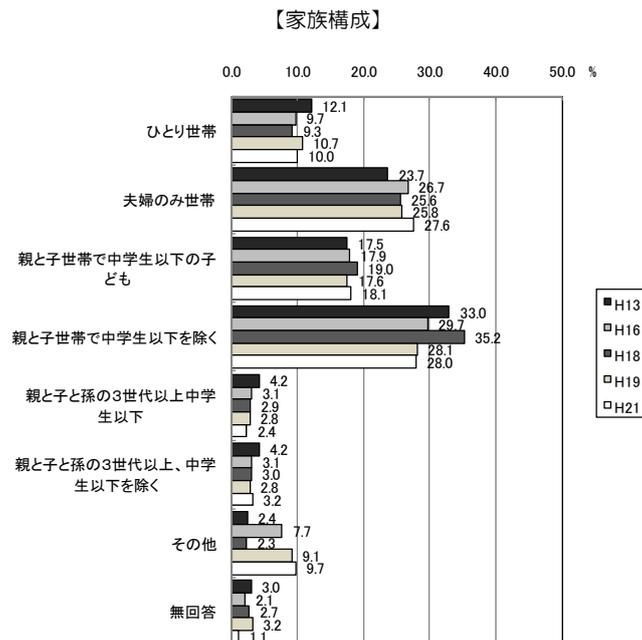
3-6 出身地

出身地については、“東京都”(22.6%)が最も高く、次いで“松戸市”(17.8%)、“関東地方(千葉県・東京都除く)”(15.6%)の順で続いている。



3-7 家族構成

家族構成では、“親と子世帯で中学生以下を除く”(28.0%)が最も高く、次いで“夫婦のみ世帯”(27.6%)、“親と子世帯で中学生以下の子ども”(18.1%)の順となっている。

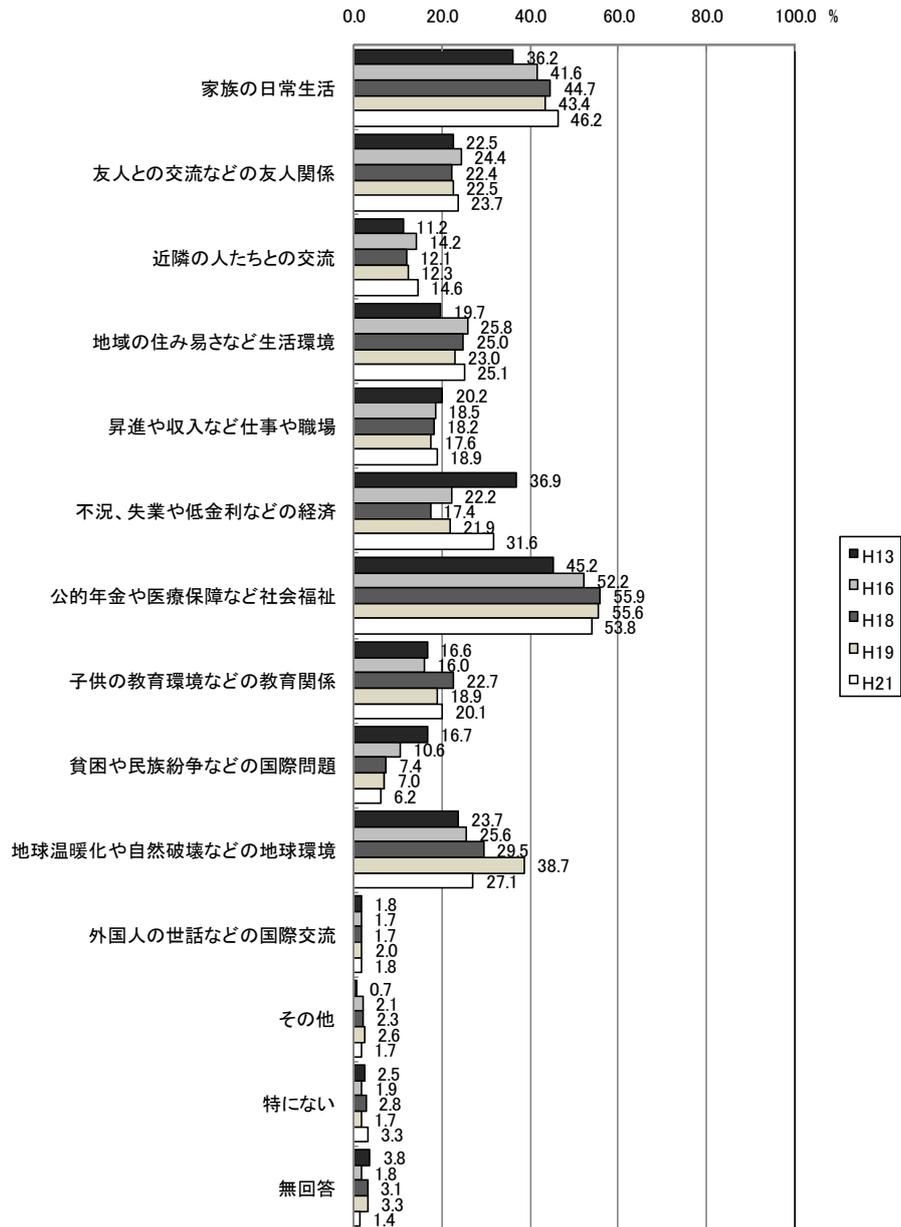


3-8 興味・関心（複数回答）

興味や関心については、“公的年金や医療保障など社会福祉”(53.8%)、“家族の日常生活”(46.2%)、“不況、失業や低金利などの経済”(31.6%)の順となっている。

前回との比較では、“不況、失業や低金利などの経済”、“家族の日常生活”などが増加し、“地球温暖化や自然破壊などの地球環境”、“公的年金や医療保障など社会福祉”が減少している。

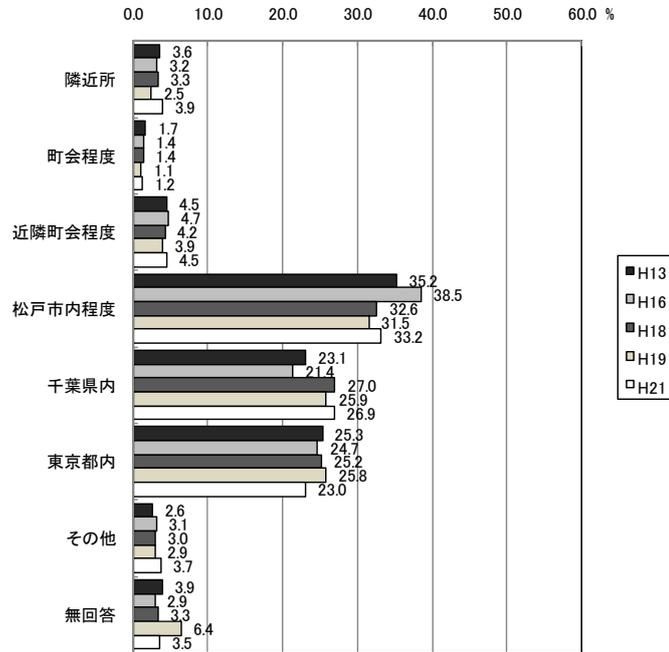
【興味・関心】



3-9 日常的な行動範囲

日常的な行動範囲をみると、“松戸市内程度”(33.2%)が最も高く、次いで“千葉県内”(26.9%)、“東京都内”(23.0%)の順となっている。前回と比較すると、“松戸市内程度”、“千葉県内”がやや増加し、“東京都内”がやや減少している。

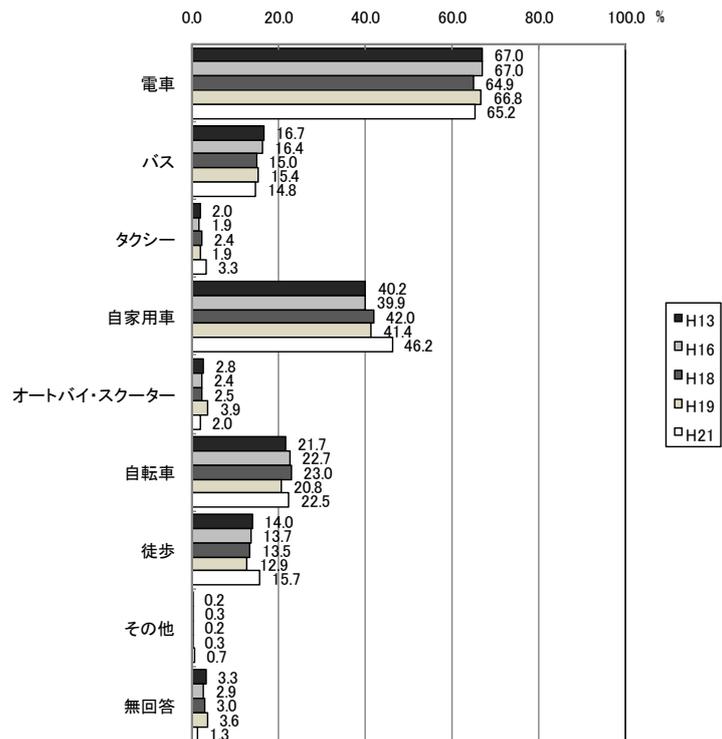
【日常的な行動範囲】



3-10 主な交通手段（複数回答）

主な交通手段については“電車”(65.2%)が最も高く、これに“自家用車”(46.2%)、“自転車”(22.5%)が続いている。前回との比較でもほぼ同様の傾向となっている。

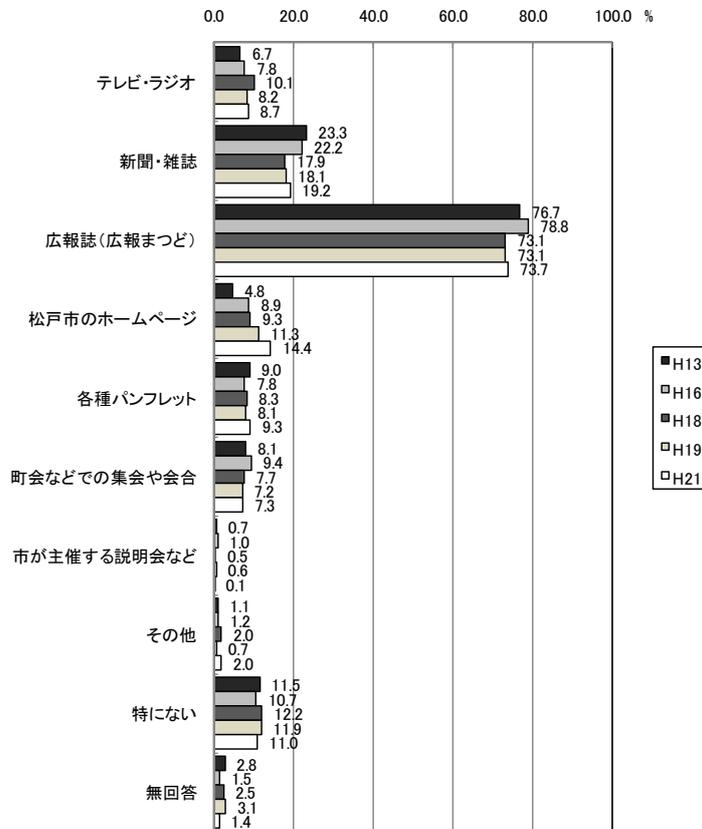
【主な交通手段】



3-1-1 行政情報の入手手段（複数回答）

行政情報の入手手段については、“広報誌（広報まつど）”（73.7%）が圧倒的に高く、全体の7割以上を占めている。これに“新聞・雑誌”（19.2%）、松戸市のホームページ（14.4%）が続いている。

【行政情報の入手手段】



3-1-2 行政サービスに対する満足度

行政サービスに対する満足度については、“どちらとも言えない”（39.7%）が最も高く、次いで“あまり満足していない”（27.4%）となっている。前回、前々回から、“あまり満足していない”、“ほとんど満足していない”が減少し、“まあまあ満足している”、“どちらとも言えない”が増加している。

【行政サービスに対する満足度】

